

保育士の満足度及び課題に関する調査

北海道保育保健協議会

渡辺 一彦、吾田富士子、吉木 美恵、飯塚 進、古田 博文、菊田 英明、小笠原由法

【研究目的】

全国的に保育士不足が深刻な問題となり、かねてより保育士の低賃金、重労働、超過勤務も知られていた。今年度の調査は、保育の現場で子どもの成長を支え、心身の健康、安全を守る保育士に焦点をあてた。道内保育士のおかれている現状とその満足度を明らかにし、園医を務めている道医師会員に求められている課題についても調査したので報告する。

【調査対象および方法】

調査対象は北海道内の保育所および認定こども園に勤務する保育士。調査方法は質問紙調査。調査内容は平成26年度の東京都保育士実態調査(東京都福祉保健局)に基づいている。配布回収は、①各種保育士研修会で配布回収、②本協議会役員のかかわる保育園の保育士に配布、後日回収の2つの方法で実施した。調査時期は2017年10～12月。回収数は391で、地域別では札幌市170件、札幌市以外の市174件、町村部47件である。

【調査結果】

1 性・年齢分布、家族構成、年収、資格取得方法・理由

全体では97.2%が女性で、年齢は各世代ほぼ均等で、全体の半数が配偶者、子どもがいる。年収は200～300万円が32.8%で、次いで100～200万円が28.6%、300～400万円が21.1%、400万円以上は12.8%であった。資格は短期大学で64.9%、専門学校で25.1%が取得、次いで保育士試験が5.1%であり、全体の84.6%は幼稚園教諭免許を取得している。取得理由は①子どもが好き75.1%②興味があった47.3%③憧れの職業40.1%であった。

地域別で見ると、町村部が20歳代前半と40～50歳代に偏っており、そのためか配偶者や子どもがいる割合も高く、年収も高くなっており400万円以上が40.5%となった。

2 勤務施設・雇用形態

全体の75.5%は認可保育所、21.3%が認定こども園であった。運営主体は社会福祉法人が86.1%、公立は10.4%、企業立は3.3%。雇用形態は59%が正規職員、26.4%はフルタイムの有期契約職員、14.6%がパートタイム職員であった。保育士としての通算勤務年数の平均は約13年、一箇所でも最も長く働いた年数は平均約9年であった。

地域別では札幌では92.8%が認可保育所勤務であるのに対し、札幌以外の市部では認定こども園の割合が36.3%と高く、町村部でも16.7%であった。町村部では公設公営に勤務している人が59%、自分の町村以外の場所に勤務する割合も25%と高くなっている。

また、年齢別では20～24歳に限っては、62.7%がフルタイムの有期契約職員で、正職員は33.3%にとどまっていた。

3 現在の職場に対する満足度

①職場の勤務日数、②勤務時間、③給与・賞与など年収、④通勤時間、⑤職場の人間関係、⑥保護者や地域との関連性、⑦その他の労働条件、⑧園の理念・運営方針、⑨上司から自分への評価、⑩保育士としての仕事全体の「やりがい」度に対する満足度を、1を「大変満足」、2を「満足」、3を「やや満足」、4を「どちらともいえない」、5を「やや不満足」、6を「不満足」、7を「非常に不満足」、とし7段階で集計した。

全体では「大変満足」「満足」「やや満足」を合わせた満足群を上位から列举すると、⑩やりがいが72.1%、⑤職場の人間関係が71%、④通勤時間68.3%、⑧園の理念方針が65%、⑥保護者・地域との関係が62.1%、②勤務時間60%、⑨上司からの評価55.2%、①勤務日数54%であった。表1に「やりがい」度の満足度の地域別集計を示すが、地域差はない。

「非常に不満」、「不満」、「やや不満」の不満足群の高い項目は③年収が39.3%、②その他労働条件が23.1%、①勤務日数が19.2%で他は、1割前後だった。表2に給与・賞与等年収に対する地域別満足度を示すが、札幌市、町村部では不満足群がほぼ半数だが、札幌市以外の市では3割であった。

地域別では、町村部が通勤時間の満足度が低く52.2%（他は7割）となった。

20歳代前半の特徴は労働条件等については「どちらともいえない」の回答が多く、判断できないと思われた。園の理念、上司からの評価、やりがいについての満足度は他の年齢よりも高い傾向にあった。

パートタイム職員の満足度は高く、フルタイムの有期契約職員の満足度は低い傾向にあった。

表1 現在の職場に対する満足度

カテゴリー	札幌市		札幌以外の市		町村部	
	度数	%	度数	%	度数	%
1	31	18.7	21	12.1	4	8.9
2	51	30.7	58	33.5	14	31.1
3	40	24.1	45	26	13	28.9
4	33	19.9	41	23.7	9	20
5	6	3.6	3	1.7	4	8.9
6	5	3	4	2.3	1	2.2
7	0	0	1	0.6	0	0
合計	166	100	173	100	45	100

表2 給与・賞与等年収の満足度

カテゴリー	札幌市		札幌以外の市		町村部	
	度数	%	度数	%	度数	%
1	4	2.4	4	2.3	1	2.3
2	24	14.5	37	21.5	6	13.6
3	25	15.1	31	18	10	22.7
4	33	19.9	50	29.1	7	15.9
5	30	18.1	22	12.8	9	20.5
6	33	19.9	24	14	5	11.4
7	17	10.2	4	2.3	6	13.6
合計	166	100	172	100	44	100

4 職場に対して改善してほしい事柄

全体では高い順に①給与・賞与の改善55.3%、②事務・雑務の軽減50.4%、③職員数の増員36.0%、④未消化休暇の改善34.9%であった。そのほか、⑤勤務シフトの改善16.9%、職員間のコミュニケーション15.8%、雇用の安定化13.6%であった。

表3はその地域別集計である。札幌市、札幌以外の市で最も高かったのは給与・賞与等の改善であり、町村部では事務・雑務の軽減である。

表3 職場に対して改善してほしい事柄（複数回答）

カテゴリー	札幌市		札幌以外の市		町村部	
	度数	%	度数	%	度数	%
事務・雑務の軽減	81	50.9	77	46.1	27	65.9
勤務シフトの改善	32	20.1	25	15	5	12.2
未消化休暇の改善	70	44	50	29.9	8	19.5
給与・賞与等の改善	97	61	90	53.9	16	39
雇用の安定化	25	15.7	18	10.8	7	17.1
職員数の増員	62	39	55	32.9	15	36.6
職員間のコミュニケーション	34	21.4	22	13.2	2	4.9
権限範囲の拡大	3	1.9	1	0.6	0	0
責任範囲の縮小	11	6.9	16	9.6	1	2.4
評価制度の見直し	6	3.8	9	5.4	2	4.9
理念や運営方針	13	8.2	0	0	0	0

相談体制の充実	14	8.8	15	9	2	4.9
研修機会の充実	8	5	11	6.6	3	7.3
その他	1	0.6	3	1.8	1	2.4
特になし	15	9.4	20	12	2	4.9
サンプル	159	100	167	100	41	100

5 今後も保育士として働き続けたいと思っている率は、札幌市、札幌以外の市では9割前後で高かったが、町村部では76.2%と低く、逆に保育士以外の職種で働きたい割合が19%であった。

6 保育士として働き続ける意欲とそのために習得したい知識・技術

全体の9割は働き続ける意欲があり、習得したい内容は①特別な支援を必要とする子どもへの支援68.2%、②保育技術57.6%、③発達心理学55.7%、④保護者との対応の仕方40.8%、⑤救命救急39.1%、⑥安全管理29.6%であった。表4にその地域別集計を示す。

働き続ける意欲はパートタイム職員が最も高く、フルタイムの有期契約職員は8割強であった。

表4 保育士として働き続けるために習得したい知識・技術

カテゴリー	札幌市		札幌以外の市		町村部	
	度数	%	度数	%	度数	%
保育実技	91	55.5	100	60.6	21	53.8
救命救急	69	42.1	62	37.6	13	33.3
安全管理	61	37.2	42	25.5	6	15.4
衛生管理	38	23.2	29	17.6	4	10.3
発達心理学	96	58.5	88	53.3	20	51.3
保育所保育指針	37	22.6	25	15.2	4	10.3
食に関する指導	37	22.6	40	24.2	7	17.9
特別な支援を必要とする子どもへの接し方	102	62.2	123	74.5	26	66.7
幼稚園教諭免許取得	8	4.9	10	6.1	4	10.3
地域の子育て支援	20	12.2	22	13.3	6	15.4
保護者との対応の仕方	76	46.3	60	36.4	14	35.9
同僚とのコミュニケーション	21	12.8	18	10.9	1	2.6
パソコン操作	41	25	49	29.7	9	23.1
その他	4	2.4	4	2.4	0	0
特に欲しいと思うことはない	0	0	1	0.6	2	5.1
サンプル	164	100	165	100	39	100

7 退職経験者の退職理由

全体で退職理由のトップ3は①結婚26.4%、②妊娠・出産21.4%、③転居18.4%で、女性の職場の傾向が顕著にあらわれた結果となった。次いで④給料が安い17.9%、⑤職場の人間関係16.4%、⑥仕事量が多い13.9%となっている。表5にその地域別集計をしめす。町村部では妊娠・出産による退職の割合は低い結果となった。

表5 退職経験者の退職理由（複数回答）

カテゴリー	札幌市		札幌以外の市		町村部	
	度数	%	度数	%	度数	%
結婚	20	23.5	28	27.7	5	33.3
妊娠・出産	18	21.2	23	22.8	2	13.3
子育て・家事	7	8.2	5	5	1	6.7
健康上の理由（体力含む）	6	7.1	7	6.9	3	20
転居	14	16.5	20	19.8	3	20
給料が安い	10	11.8	24	23.8	2	13.3
仕事量が多い	13	15.3	13	12.9	2	13.3
労働時間が長い	14	16.5	10	9.9	1	6.7
職場の人間関係	18	21.2	15	14.9	0	0
保護者対応等の心労	5	5.9	8	7.9	0	0
職業適性に対する不安	9	10.6	9	8.9	0	0
他業種への興味	8	9.4	10	9.9	1	6.7
家族の事情（介護等）	5	5.9	6	5.9	1	6.7
配偶者の意向	0	0	3	3	0	0
その他	18	21.2	15	14.9	1	6.7
サンプル	85	100	101	100	15	100

【考察】

この調査結果を東京都調査も踏まえて検討する。現在の職場に対する満足度に関しては、まず年収満足度であるが、札幌以外の市<町村部<札幌市の順で不満度が高い。札幌市は何かと生活水準が高いので不満が強く、町村部は年齢構成が高いにも関わらず給与の伸びが低いことが背景にあると思われる。保育士の給与は勤労者平均賃金から見ると低く、政府も対策を講じているが未だ達成してないのがわかる。しかし、東京都調査では不満が7割弱にも達しており、北海道では他職との給与格差が小さく、不満があまり募らないためと考えられる。

勤務日数、勤務時間に関する不満度は札幌市では比較的高いが、全体的に予想より低く、東京都調査では4割にも達しているのと比べると道内園はまだ勤務状況は恵まれているといえる。同時に「やりがい」度も高く、園は健全な運営がなされているようである。そのため保育士として働き続けたいと思っている率も全体では9割にも上っている。しかし退職経験者の理由をみると、結婚、妊娠・出産、転居と並んで、給与が安い、仕事量が多い、労働時間が長い、職場の人間関係が挙がっており、過去には問題のある職場があったこともうかがえる。東京都調査では退職理由の2位が「給料が安い」であり、道内では給与に対する不満は低く、低賃金による退職が少ないのは園の運営にとっては幸いである。

職場に対して改善してほしい事柄では、給与・賞与の改善、事務・雑務の軽減、未消化休暇の改善、職員の増員が3割を超えていた。これらは東京都の調査と同じ傾向である。医師の職場環境でも書類書きなどの事務・雑務の負担が増えているが、保育現場でも同様なものは納得がいく。その対策の一つとして職員の増員が望まれるのも同様である。また年休未消化への不満も肯ける。保育の現場でも人手不足が常態化しており、この点の早期解消は困難が予想される。

保育士として働き続けるために習得したい知識・技術に対しては、特別な支援を必要とする子ども、発達心理学が保育実技と並んで要望が高く、保育現場での「発達しょうがい児やその境界児」の増加が反映していると思われる。救急救命、安全管理も要望が高かった。この点では地域差は無く、これらの分野での医師会・嘱託医の協力・支援が求められていると思えたが、現状では医師側でもこれらの領域では地域格差が高く、十分な協力・支援が困難にも思えた。東京都調査では3位の保護者との対応の仕方が道でも4位と上位であるが、いわゆるモンスターペアレンツも増加している現実を反映していると考ええる。

退職経験者の退職理由については、結婚、妊娠・出産が上位であり、転居も含めてやむを得ない面もある。しかし、給与が安い、労働時間が長い、仕事量が多いことへの不満が挙げられており、東京都調査とも程度の差はあれ、あまり相違点はない。また職場に対して改善してほしい事柄での項目と類似していた。

保育現場は今後も保育士として働き続けたいと願う9割の意欲的な保育士に支えられており、これらの点は現

状では解決はなかなか困難と思えるが、早い時期に保育行政の抜本的見直しが求められると思われる。

【結語】

道内の保育士の満足度及び課題に関する調査を報告した。保育士の労働環境は東京都と比較してもさほど恵まれた環境とはいえないが、やりがいをもって意欲的に働き続けている様子がうかがえた。2018年4月に施行された新しい「保育所保育指針」を踏まえた抜本的な保育行政の改革が求められる。保育士の期待に応えるために、嘱託医にも道医師会バックアップが必要と考えられる。今回の当協議会の調査結果が保育士の職場に対する満足度の向上と、園児の成長、健康・安全の向上役立てていただければ幸いである。

【謝辞】

この度の調査を行うにあたり、研究費の助成をいただいた北海道医師会に厚く御礼申し上げます。またアンケート調査にご協力いただいた保育関係者、集計にご尽力いただいた藤女子大学保育科、北海道医師会事業第三課の皆様にご心より御礼申し上げます。

【参考文献】

東京都保育士実態調査報告書 東京都福祉保健局 平成26年3月